

令和3年度第2回  
柏市立図書館協議会  
グループワークまとめ

柏市立図書館

# Aグループ意見集約

(Aグループメンバー)

三浦会長，岩永委員，宮島委員，高橋委員，羽村委員

## 問題意識

## Aグループの意見 1

## (1) 地域資料が次々に失われていることに危機感

古い民家がなくなる際に地域の公民館や文化財課へ連絡する→発掘調査・図書館と同じ 資料があれば図書館へ

地域資料の捉え方が大人目線？ 子ども時代の感性やものの見方から捉えた塗料もある？

検索ができるように(書庫の段ボール) なまの資料がなくなってしまう

集めるべき情報の線引きは？ どんな基準で誰が行う？ 既存の選書基準の運用でできる？ 新基準必要？

地域の資料を集める際の基準

何を集めるか？などのルール

具体的な作業

## (2) 資料を収集・整理して次世代に引き継ぐことは柏市の図書館の使命

収集情報の線引き 誰が、どんな基準で？

まずは存在を知らせる！

ケアしていない資料とは→住民に聴く→そのための広報活動 イベント・講座の開催とヒアリング

統一されたデータ仕様を借りてくるという考え方

集めた後の扱い⇒そのままのこす⇒デジタル化⇒どう公開するか

市民は情報をどうすれば活用できる？ どんな利用の可能性はある？

集約+<発信>

資料の中身の判断は利用者にゆだねてよいのでは

## Aグループの意見 2

(3) 収集には市民の協力が  
必要

担い手 ボランティア

地域固有な資料収集に比  
重を置きたい誰を対象にするのか どう  
いう活用を考えるのか柏にまつわるフリー素材あ  
るデジタル格差をどううめて  
いくのか柏にデジタルアーカイブを  
受け入れる土壌ある？貸出冊数・利用者数以外  
の指標は？  
何人が使えれば良い？公開 少しずつ広げてい  
けたらいいのでは？(4) デジタル情報の収集  
が不可欠アナログ資料のデジタル  
化+デジタル資料のアー  
カイブ分館に実物+デジタルに  
コピー という体制ならアク  
セシビリティ高まりそうWebサイトを地域資料とし  
てアーカイブしたいデジタルアーカイブの活用  
保管 オープンもデジタルアーカイブの今を  
知りましたデジタルデータの活用(教  
育)⇒調べ学習の検索先  
を考えたい

## Aグループの意見 3

(5) 協働による収集活動は「地域づくり・人づくり」につながる

図書館の役割の奥深さを感じます + 発展(次の一年)が必要

地域の中の図書館という発想が必要

学校も含めたつながりがうみだすことができるか？  
小学校 町たんけん 地域を知る.....

人による伝承 デジタルでのこすのは？⇒講座開設⇒地域資料が人をつなげる働きになるか？

(6) 多くの人に関与する仕組みを構築することが重要

社会にPRしやすい 理解が得やすい わかりやすい指標は？ なければほしい

待ち受け型の情報開示で良い？ 発信して市民の支持を得ないとコストカットの要求に抗えないのでは？

柏市としての方向性・方針を決め、併せてセキュリティ、個人情報対策に留意しながら少しずつ収集・整理・提供し、ニーズや満足度を調べて進めていく

BnFのように(科学博物館などもとりくんでる)オブジェクト資料もアーカイブできそう

民間NPO, 法人, コミュニティ団体と連携を図り, 柏市民の情報利用・提供を行い, 方向性について市内大学等にアドバイスしてもらう

資料解読プロジェクト！  
図書館×市民×研究者

## Aグループの意見 4

(7) 学術的な側面と広く  
興味・関心を喚起する取  
組の両面が必要

(8) 各分館が地域情報の  
拠点として機能すること  
を目指す

先進的なエッジの立った  
取り組みでメディアをまき  
こめれば

会議 会議ではなく、手を  
動かせるフィールドを

増尾分館の取り組みが少  
しずつ広がるとよいのでは  
⇒発信！

義務感ではなく⇒楽しい取  
組み⇒私のため⇒私たち  
の地域のため

感動事例を募集 コンテス  
トで PRできないか？ 関  
係人口を増やせそう 愛  
着もわきそう

学校との連携

分館ごと＝地域ごと⇒1つ  
の地域活動へ⇒年1で市  
全域の交流

地域の公民館 市内公立  
学校への郷土情報の提供  
(デジタル情報とともにイン  
デックス, パスファインダー  
の作成)

古い資料(写真) 今と重  
ならないと興味が湧かない

# Bグループ意見集約

(Bグループメンバー)

丹間副会長，笹間委員，藤田委員，佐々木委員

## Bグループの意見 1

(1) 地域資料が次々に失われていることに危機感

記憶＋資料→地域の歴史

高齢化とコロナ禍により、地域の伝統行事が消滅していく可能性大←強い危機感

市民にその危機感があるか？ 危機感を共有できる場が必要

(2) 資料を収集・整理して次世代に引き継ぐことは柏市の図書館の使命

地域行事について現状の把握 それに対する支援

持続可能性→何を残すのか？

地域の写真にはタグづけが必要

地域事業 色々な部署 まきこむ必要



## Bグループの意見 2

### (3) 収集には市民の協力が 必要

市民のボランティア団体や  
ワーキンググループが必要

人を育てながらアーカイブ  
していく→地域の持続可能性

関係人口となる方々にも  
地域を育て守ってもらう→  
デジタルだからこそ

記憶をとどめておくことが  
重要

アプリなどで気軽に地域  
資料の登録やタグづけが  
できるとよい

地域へのアイデンティティ  
形成につながる

担い手・活動を行う市民を  
いかに育てていくか(地域  
資料×地域人材)

10年後、こうなりたいとい  
うビジョンが明確 周りを  
巻き込む力

### (4) デジタル情報の収集 が不可欠

紙資料の抱えるリスク(水  
害+火災など)

デジタル化→あらゆる人  
の学びには、デジタルに  
弱い人への支援こそ重要

図書館の役割  
→厳選+連携か?  
→拡大+複合化か?

デジタルアーカイブ化 役  
割分担・組織づくり しくみ  
づくり

## Bグループの意見 3

(5) 協働による収集活動  
は「地域づくり・人づくり」  
につながる

北摂アーカイブの活動は理想的 柏市でもぜひ取り入れ活動につなげていきたいところ

語りの記録(オーラルヒストリーの聞き書き)

地域資料コーディネーターの配置←研修とネットワーク

場としての機能→担い手が集い育つためには必要

地域情報の収集を地域の住民有志で行うことで新たなコミュニティを結び直すきっかけともなる

地域の人々の記憶+図書館の資料

モデル事業をいくつかの分館で実施して横展開(予算やコーディネーターも配置)

(6) 多くの人に関与する  
仕組みを構築することが  
重要

資料収集 デジタル化の拠点となる(役割分担、市民が参加できる仕組み)

「みんなで古写真」タグ付けという手法を活用し、多様な人々の参加できるアーカイブにする 新しい手法として積極的に活用したい

取組みに着手するには、役所内での仕事の進め方、プロジェクトのデザイン発想が必要 ミッションの共有 ロードマップづくり 小さな実績の積み重ね 人々の巻き込み(キーパーソン)

情報収集は市民、アーカイブのしくみづくりは公共、役割の分担を!

大阪市「思い出のこし」聞き書きは重要! 人々の心の中にある歴史的事実をアーカイブすることの大切さを知る

できるだけ広く公開しているいろいろな人に使ってもらおう(二次利用)

思い出のこし 小中学生も地域のお年寄り聞き書きの時間を取り入れる

## Bグループの意見 4

(7) 学術的な側面と広く  
興味・関心を喚起する取  
組の両面が必要

デジタルに弱い人に対する支援

ここにしかない資料・情報を大切にする

他でできることは他に任せる

図書館ができること+連携してできること

地域の重要な資料は学校にある 学校は1つの軸

定期的に シンポジウムや展示会等のイベントを開催し、活動そのものをPRする

資料の存在を公にする

未来に何かをつなげよう、伝えようという意識の薄れ 残してもらえたことへの感謝から自分たちの世代(時代)からも残していこうという気運

(8) 各分館が地域情報の  
拠点として機能することを  
目指す

外部から流通情報を取り込む拠点という考え方は大切

各分館は狭いので、デジタル化は不可欠

分館ごとのテーマの特化(すでに着手している)分館のプロジェクトチームづくり ※コーディネーター不可欠

ここにしかない資料・情報の集約・発信

分館に役割 地域情報の拠点であること

“分館”と市民ボランティアの間をとりもつコーディネーター(もしくは組織)が必要

地域に根差したコーディネーター, コミュニケーター